
私とアイドル

戯言遣いの弟子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私とアイドル

【ZZマーク】

ZZ8305

【作者名】

戯言遣いの弟子

【あらすじ】

起きると其処には初音ミクが。
パニッシュコメディ！

(いや、意味ワカラんテ。)

ここ、あなたへ（記書也）

… あなたがこの名前を異字ひでおこします。

いや、ちよつと待て。

「音繼葉～？」

私は宮御 音繼葉。女子高生。

今話しかけてきたのは、親友の美嘉金 連厘同級生。

「うーん？ なにー？」

「あんたつてさ、初音ミクって知ってる？」

「はつねみく？ ……ああ。あのバーチャルアイドルとか書いつ架空アイドルね。それが？」

「…あんたつて、パソコン嫌い？」

「いや」

確かにパソコンは持つてないけど。

「…で、知ってるんだ」

「それが？」

「面白いよ。聞いたら？」「それが？」

「…それしか言えないのか…？」

「さあ？」

「…取り合えずオススメなんで見るべきにいやよ」

「その口癖じうにかならんの？」

「それは作者に聞いて」

えへ（ ）

「「（・・・） オイオイ」

あは。

「…で、図書館で曲を聞くダメ女子高生…うわあ。……………仮にしない。…お、あつたあつた。それではクリックッ！」

『朝日が覚めて』

「メルト、か……」

10分経過……

「…………」

20分経過……

「…………ハマるな。連厘ちやんの言ひ通つだつたな……いつまは戯言ばつかなこのこと、時間ヤバッ！」

「お帰り～」

「只今帰還しました！隊長！」

「よべやつた！音繼葉隊員！」

「寝か……疲れた……」

『…………』

(誰……?)

『…………』

(え……?)

『…………』

(は……?)

『おせよつー』

『…………はい……?』

取り合えず、むにー、と頬を引っ張る
うん。痛い。

起きると其処には絵に書いたような初音ミクが、
… 戯言けて言つても一緒か…

現状整理。

今、私の部屋に、世界的（？）アイドル、初音ミクが、居る。
わを。

淡テキ～ラ。

いや、ちよつと待て。（後書き）

宮御 音継葉は、逆さから読むと、初音ミク。
美嘉金 連厘は、少し異字ると、鏡音リン、鏡音レンになります。

取り合えず救助信号発令。（前書き）

新キャラ登場？

取り合えず救助信号発令。

『どもども。』

『どもども。じゃなくてー。』

『つめり…』

「あんた誰ー?」

『あはは…』

「3人目ー?」

『俺はショタじゃねえー。』

「聞いてねえよー。」

「で、名前は?」

『初音ミクでっす!』

『鏡音リンよ。悪い?』

「聞いてない。」

『鏡音レンと申します』

『礼儀正しいー?』

『えつー?』

「ああ。何でもないよ」

「何の用?」

『さあ?』

「さあー?」

『いやあ、何が何だか、僕達にも分からないので…』

『ふーん』

『あー、いいねえっ！』

「黙れ地球外生命体一人。」一回友達と電話する

『はい～』

「ちょっと、連厘！一回家来て！」

「うん。もしや、初音ミクに逢つたとかー？」

「……エ?ヨク、キキトレナカツタナ」

「…マジ？」

マジだよ

「取りあえず逝くね！（鮮やかにスルー）」

ぐぶつ！作者を無視するとわあ！

取り合えず救助信号発令。（後書き）

特徴

初音ミク
よく語尾に
『』

が付く。

基本的にテンションが高い。
ポジティブシンキング。

鏡音レン

基本的にショタ（本人は否定している）。

おつとりしているが、ショタ呼ばわりされると一重（？）人格になる。

鏡音リン

基本的にツンデレ（？）。

だがレンと居る時は、優しくなる。＝今はまだ優しい方。

本性（？）

「ううわー。届いたよ！」

「ともて、あー!」

卷之三

「えっと… カチューシャはリンだから、鏡音リン」

四
七
七

卷之三

『あー… 言つやがつた…』

あ
?

ノイズ

「？」

『耳栓よおーーい!』

『さりがニ』

誰が！

「お？ 怒りの四つ角マーク？」

アハソムリサギのアーティス

「だからな

『あ…落ち着いて…レン君…』『誰がシヨタだ～～ツツツツツ…』
『…』

『』

『』

『』

『』

『』

『』

『』

『』

『』

『』

『』

『』

「連厘」

「…？」

「レン君は機嫌直したよ」うん

『…作者黙れ。』

……（号泣）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8305j/>

私とアイドル

2010年10月9日06時38分発行